

かがり火に照らされ幽玄な舞を披露した
福山八幡宮の薪能



炎が照らす神秘の舞

福山八幡宮で薪能

福山市北吉津町の福山八幡宮で28日、薪能があり、約千人が日本の伝統芸能を楽しんだ。

主演目は世阿弥の八島。僧の前に姿を現した老漁師が実は源義経の亡霊で、屋島の戦いなど源平合戦での思い出を語り、舞う構成。シテの漁師と義経は、重要無形文化財（総合認定）保持者で喜多流

職分の大島政允さん（68）＝福山市＝が務め、かがり火に浮かぶ幻想的な能を披露した。

福山八幡宮の薪能は1986年から毎年開かれており、今年で25回目。この日は狂言、舞囃子などもあり計6演目が披露された。

（武内宏介）

10/07/29
中国新聞